應安二年以氏建立とあるなれば以氏は義満將軍
の頃の人なり之和氏年は永徳文治五年の生なり
見石以氏の事は山梅れ之應安二年と乃ち生百
九十二年墓葉六代なり　世次郎澄氏　四郎氏記（実は澄氏）
（誤なり）左宗亮（定名不知）又を宗左氏説なるを事実
時時甚る新九郎入道浄昌までを以て羽黒山の
社務職なりしなり毎年上京年月して官位を求
位五位に補せられ上る時の礼奠を忘らず下方
氏を捨てしば國富を徳昌して近境他境の
産まで呼ひつぐなりけり然に浄昌の
子四郎左宗義氏と云者の代に高て家
運衰めぐる時に当りけるを中興なり社官職
を嫌ひ一向武家の本村なる羽黒山の社務職を
ば品高き高きと云者と上旬を代役に出し中
旬下旬をば法印村村村村の物頭に任せ
生涯を新多牧を山頂水嬉乱酒宴のみ日を
暮す社務と中を忘れ代法
所と呼ぶべしと國中へ鶴を四一殺生禁断の